

『よりんさい家』に寄ってきんさい!

けすみしんぶん

発行 振興会
住所 島根県邑智郡邑南町
阿須那 34-2
電話 0855-88-0022



「小さな拠点づくり」に
ついてのお問い合わせは
邑南町羽須美支所 地域振興係 まで
TEL 08555・87・0221

おしゃべり、体操でリフレッシュ

住民手作りの作品展示

「おしゃべり処よりんさい家(や)」は、気軽に集まって話しができる場所がほしいという阿須那地区の住民の声から生まれた現代版の井戸端会議だ。週1回の開催日には毎回約20〜30人の参加者が集まる。開設から5年を迎える阿須那の新しい拠り所にはいつもにぎやかなおしゃべりと笑い声があふれている。



体操などで身体を動かす参加者=阿須那、よりんさい家

よりんさい家には住民手作りの作品が所狭しと並んでいる



「阿須那地区を豊かにしていきたい」と始まった住民グループ・YUTAがプロジェクトが、平成29年4月、邑南町の地区別戦略実現事業で、旧信用金庫跡を改修してスタート。地元言葉で「よりんさいや」とは「ちよっと寄っていかれ

雲海の撮影スポットとして親しまれている邑南町上口羽の伴蔵山(501メートル)山頂付近にある「自然回帰高原」の展望台の眺望を確保しようとして12月初旬に口羽地区の住民らが、視界をさえぎっていた雑木などを伐採、入り口の道路や駐車場の倒木除去作業などを行った。



伴蔵山は、雲海が発生する場所として親しまれ、各種のイベントも行われてきたが、高齢化が進み、進入路や展望台の整備が求められていたところ、住民有志が島根県小さな拠点づくりモデル事業の「課題解決チャレンジ補助金」を活用。地域外からのファンを呼び込む目的で、周辺を整備した。作業に参加した河野光也さん(下口羽)は「きれいな雲海を見てもう喜んで」と喜んでいる。

眺望をさえぎる雑木を伐採した展望台(写真上)

伴蔵山雲海スポット 展望台の視界良好です!

「阿須那地区を豊かにしていきたい」と始まった住民グループ・YUTAがプロジェクトが、平成29年4月、邑南町の地区別戦略実現事業で、旧信用金庫跡を改修してスタート。地元言葉で「よりんさいや」とは「ちよっと寄っていかれ

を作ったり、七夕など季節を感じられる行事も積極的に行う。阿須那小の児童を招いたり、地元の絵手紙・手芸・陶芸クラブの作品を展示したり、と地域とのつながりを育む場になっている。

参加者は「ここに来ると、知った顔に会うことができると楽しい」「同じ羽須美地区でも今まで話したことなかった人とも話すようになり、いい出会いの場になった」と笑う。運営費は1人100円を支払ってもらい飲み物

代に充てながら、住民有志によるボランティアや女性グループの協力によって成り立っている。

当初から運営に携わる松島道幸さんは「金曜日

けすみの ゲストハウスを 利用してみませんか？

令和元年以降、羽須美地域に三つのゲストハウスが誕生した。いずれも空き家を改修し、それぞれ地域の特色や歴史、文化を生かした宿だ。

地元に戻りたいが泊まる場所がない方や、同級生たちとの会合などに利用してみたいいかがでしょうか？

阿須那地区の池月酒造の向かいにあるのが「mikke(みっけ)」。

客室はふすまで仕切られた6畳間が2部屋あり、

人数によって自由にレイアウトできる。これまで旅行者だけでなく、親族の法要で帰省した人や羽須美地域で行われたイベントに参加した人などさまざまな人が利用している。

カフェ&ベッド「うづい通信部」は旧JR三江線の駅で、地上約20メートルにホームがあることで

有名な宇都井駅の近くにあり、空き家となっていた築95年の服部医院を改修。鉄道ファンや田舎の風景を楽しみたい人らに人気だ。客室は日本庭園が目の前に広がり、最大1組8名がゆったり休める広い和室だ。12月〜4月上旬まで冬季休業だがそれ以外の期間であれば、ワーケーションにも利用可能だ。

今年オープンしたのが口羽公民館の近くにある「コイサイド」。名前の通り、かつて盛んだったコイの養殖場が隣にある。客室は2階部分で和室6畳と洋室7・5畳。木の温かみを感じられるテーブルや椅子が置かれている。

江の川の支流、出羽川が隣を流れており、養鯉業が行われている様子も見学できる。いずれのゲストハウスも木のぬくもりを感じられる素敵な空間で、田舎のゆったりとした時間が流れる。

これを機に一度利用してみたいいかがでしょうか？



mikke



うづい通信部



コイサイド

	mikke(みっけ)	うづい通信部	コイサイド
住所	阿須那2-4	宇都井1067-1	下口羽471-2
営業日	お問い合わせください		
利用人数(最大)	6人	8人	6人
料金(素泊まり1人)	4,500円	4,500円	4,500円
アメニティ	シャンプー、リンス ドライヤー、Wi-Fiあり	持参、Wi-Fiあり ドライヤー	シャンプー、ボディソープ ドライヤー、タオル、Wi-Fiあり
問い合わせ、予約先	090-5701-4139	090-7127-4334	090-4147-5175

おおなんDIY木の学校が好評！ 都市住民が羽須美の改修現場で学ぶ



講師の指導を受ける受講生(写真左)、土壁を使った壁づくり(写真右)=雪田の「みんなのふるさと道場」

羽須美地域を舞台に始まった「おおなんDIY木の学校」が、都市部のDIYに興味のある人たちに好評だ。土壁を塗り直したり、床を張り替えたり、他の教室ではなかなか体験できない自然素材を使った本格的な内容が注目を集める。

近年、急激に空き家が増えている羽須美地域の空き家の活用と同時に、DIYに関心を持つ都市住民に羽須美地域に関わりを持ってもらおうと、邑南町が企画。学校運営をNPO法人はすみ振興会に委託し、地域おこし協力隊の大島晋也さん(阿須那在住)が事務局を務める。

教室は、施主が自己資

金でDIYをしている古民家の改修現場を借りて開講。材料等は施主が支払い、古民家の再生に詳しい技術者を講師に招く。科目は、「土壁の再生」「床の再生(無垢材を使った床の張り替え)」「自然塗装(自然由来の塗料の使い方)」など8種類の専門科目と、基礎的な木工技術を学ぶ科目がある。受講料は1泊2日で2万円(宿泊費・食費別)。広島市内を中心に中には関東・関西から訪れる人もあり、令和3年度の10回(定員5〜8人)はすべて満員となり、定員以上のキャンセル待ちが発生した科目も。これまでゲストハウスなど5軒(宇都井のうづい通信部、下口羽のコイサイド、阿須那のmikkeと紙楽社、雪田のみんなのふるさと道場)が教室として使われ、講座の修了後も、受講生達が施主が行うDIYに違い、完成後は利用者と通い、完成後は利用者として再訪するなどつながりも深まっている。大島さんは「自然素材を使った建築に関心が高まっているのを感じる」と話している。

コロナの影響で行事の中止相次ぐ

新型コロナウイルスの流行が始まった令和2年春以降、羽須美地域で長く続いてきた祭りや行事が相次いで中止されたり、延期されたりしている。「お家芸」のソフト

テニスでは、大正時代から続いてきた大会も、太平洋戦争時の中断以来、74年ぶりの中止を余儀なくされた。小中学校の行事、敬老会、神楽、祭りなども相次いで開催が見送られ、住民同士が会う機会が減り、出身者の帰省も減少するなど、影響は少なくない。

大正14年から羽須美地域で開催されている軟式テニスの「近県オープンソフトテニス大会」は、令和2、3年と連続して中止になった。同大会が中止されたのは、昭和18年(21年まで太平洋戦争を理由に中止されて以来で、昭和22年から毎年続いていた連続開催が途絶えた。もう一つのお家芸の水泳でも、令和元年度まで30回続いてきた「島根・広島両県スイミングクラブ対抗水泳大会」も2年連続

の中止となる方向だ。雪田神楽団は年間20回ほどあった町内外での公演はこの2年間はすべて中止された。昨年と今年

は、インターネットを通じて公演を配信したのが唯一の「晴れ舞台」となった。雪田子ども神楽の練習も開催が見送られてい

る。阿須那の伝統の祭り「次の日祭り」も2年連続で神事だけが執り行われた。学校行事では、阿須那

口羽両小学校とも、大人数での飲食を控える必要から運動会が昼までの開催となった。広島県の緊急事態宣言によって、すぐ隣の三次市作木町への移動も自粛を余儀なくされ、予定されていた梨園での体験なども見送られた。

盆踊りや敬老会も開催見合わせが続いているが、少しずつ感染防止対策に留意しながら開催する行事も。口羽地区の敬老会は令和2年は開催を見送り、弁当を自宅に届けるのみだったが、「みんな

地域のつながりを紡ぐ店に

美容室いと・三上和美さん 羽須美で久々の新規開業



店主の三上和美さんと夫の浩二さん、息子の蒼甫くん

美容室いとの外観



美容室いと 邑南町阿須那1131-21
Tel 050-5207-6290 定休日 毎週月曜、第1.3日曜

阿須那の県道浜田作木線沿いに立つ、瀟洒な白い外観の「美容室いと」。オープンして今年で5年目を迎えた。

阿須那で起業し、邑南町商工会に新規加入した

高校卒業後から美容師をしていた和美さんは、お店を持つなら人とのつながりがある地元がいい、と考えるようになった。阿須那小学校に通う息子が、歩いて立ち寄られる距離も気に入って、今の場所を選んだ。

子どもが急な病気になることもある。地元のお客さんは事情が分かるので、予約の変更を快く受け入れてくれる。実家の助けもある。仕事も含めて「日々の暮らしが安心」と感じている。

開店当初はお客さんが来てくれるか心配したが、コロナ禍で逆に増えた。「都会の美容室に行っていた人が、安心な地元を向けてくださっているのかもしれない」。和美さんは阿須那で毎月第2日曜日に開催されるイベント、「あすな市」の主催メンバーの一人。地元を中心に「おすそ分けのような伝統を復活させたい」という思いを形にしつつある。

夫の浩二さんは「彼女は芯が強い女性。お互いの休みは合いくいけれど、家族でいる時間を大切にしてくれる。自分はサポート役に徹している」と笑う。

「いと」のロゴは、2つの文字が1本の線につながったデザイン。「ヒトやコト、地域とのつながりを大事にしたい」という和美さんの思いが込められている。

三江線公園が国土交通大臣表彰

JR三江線の跡地を令和3年4月1日から「三江線鉄道公園」として整備している邑南町とNP

O法人江の川鐵道の活動が、国土交通大臣表彰の「てづくり郷土(ふるさと)賞」に選ばれた。島根

県内からの受賞は3年ぶり。廃線後の鉄道資産を放置するのではなく、住民と鉄道ファンと共に整備・運営してきた取り組みが評価された。

JR三江線が平成30年3月末をもって廃線された後、江の川鐵道などの要望を受け、邑南町が口羽駅と宇都井駅などをJR西日本から無償で取得。廃線後も、宇都井駅やその周辺をライトアップする「INAKAイルミ」や、江の川鐵道によるト

ロッコの運行が行われている。住民だけでなく、鉄道ファンや島根県技術士会の会員ら町外に住みながら邑南町で一緒に活動する「関係人口」と呼ばれる人たちと一緒に活動している点なども評価された。

日高弘之理事長は「廃線は地域にとってマイナスだったが、それを逆手にとって振興策につなげる方向性が見えてきた。やってきてよかった」と話している。

トロッコ増車へ800万円寄付募る 乗客増で地域盛り上げに一役

邑南町とNPO法人江の川鐵道は、三江線鉄道公園で走らせるトロッコ型車両を2両増やすために寄付を募っている。ふるさと納税制度を使い、寄付控除が受けられる。目標は800万円。受付は令和3年12月31日まで。寄付は「ふるさとチョイス」のサイトから申し込むか、邑南町役場・支所でも受け付けられる。2千円分の手数料を差し引いた上で、寄付控除が受けられ、所得税や住民税が減額となる。



ふるさとチョイスはこちらQRコード

町外の寄付者には返礼品があり、トロッコの乗車券や三江線のグッズなどが受け取れる(町民は返礼品を受け取れない)。問い合わせは町商工観光課(電話0855・95・2565)へ。

はすみしんぶんを無料でお届けします!!
NPO法人はすみ振興会が発行しているはすみしんぶんを町外に住まれている方に無料でお届けします。
はすみしんぶんは、令和3～6年度に年3回発行する予定です。羽須美地域の皆さまには全戸に配布します。
役場羽須美支所、阿須那・口羽両公民館等に用意しておりますので、ご自由にお持ち帰りください。
また、羽須美地域以外にお住まいのご兄弟やお子さん、ご親戚、同級生、この地域に関心のある方など、ご希望の方に令和6年まで無料で送付させていただきます。「この方に送付してほしい」というご希望がありましたら、先方に送付のご了解をいただいた上で、はすみ振興会(電話0855・88・0022)へご連絡ください。



ライトアップされた宇都井駅、稲穂を模したLEDのライトやドームなどが設置された

江線鉄道公園宇都井駅公園で開かれた。

令和2年はオンライン中継のみの開催だったが、今年は少人数だったが、設置作業に参加したボランティアと予約制で入場した約200人がイルミの光りを堪能したほか、インターネットでの配信を行った。

稲穂に見立てたイルミなど約6万球のLEDが輝くイルミは平成22年から続き、廃線後も町民有志でつくる実行委員会(三次宏昭委員長)が実施。廃線後の平成30年からは、町内外の「応援団」を募集して、実施している。

応援団の登録はINAKAイルミのホームページでできる。今年のイルミの様子はYouTubeの「江の川鐵道チャンネル」で視聴できる。

12回目となる「INAKAイルミ2021」お
おなん」が11月20、21日の
両日、邑南町宇都井の三

コロナ対策で 予約制で開催

12回目のINAKAイルミ

はすみな一枚



邑南町宇都井と三次市伊賀和志の間かかる江川第3橋梁を初めて渡った江の川鐵道のトロッコ型車両=令和3年10月14日、佐々木創撮影